

[参考事項]

新技術名：リンゴ‘ふじ’果実における輪紋病菌の感染は6月～7月に多い（平成17年）

研究機関名 果樹試験場 環境部 病害担当
担 当 者 本郷公子・佐藤 裕

[要約] リンゴ‘ふじ’果実における輪紋病菌の感染時期は6月から9月中旬までである。
特に6月から7月には病原菌の柄孢子飛散量が多く、果実の感受性も高い。

[ねらい]

近年、リンゴでは輪紋病の発生が増加傾向にあり問題になっている。本病は商品となる果実が腐敗するため、防除対策の改善、強化を図る必要がある。このため、果実の本病に対する感受性の経時変化と病原菌の飛散時期を明らかにし、防除対策の参考とする。

[技術の内容・特徴]

1. リンゴ‘ふじ’果実は、6月上旬から11月上旬まで約10日間ずつ暴露し、11月上旬に収穫した。収穫時には発病の有無を調査し、発病していない果実は25℃に加温した室内に10日間保持して発病を促した後、再度調査した。
2. 果実感染は6月上旬から9月中旬まで認められた。6月から7月までの感染では、樹上での発病が認められ、感染果率が高かった（図1）。
3. 柄孢子飛散は5月中旬から始まり10月下旬に終息した。柄孢子捕捉数は6月上旬から7月上旬に多かった（図2）。
4. 以上より、リンゴ‘ふじ’果実における輪紋病の重点防除時期は、6月から7月であると判断される。

[普及対象範囲]

県南部、中央部のリンゴ栽培地域

[普及・参考上の留意事項]

1. 本病に対しては治療的な効果を有する薬剤がないため、散布間隔が延びすぎないように注意する。
2. 散布予定日に降雨が予想される場合には、降雨前に防除する。

[具体的なデータ等]

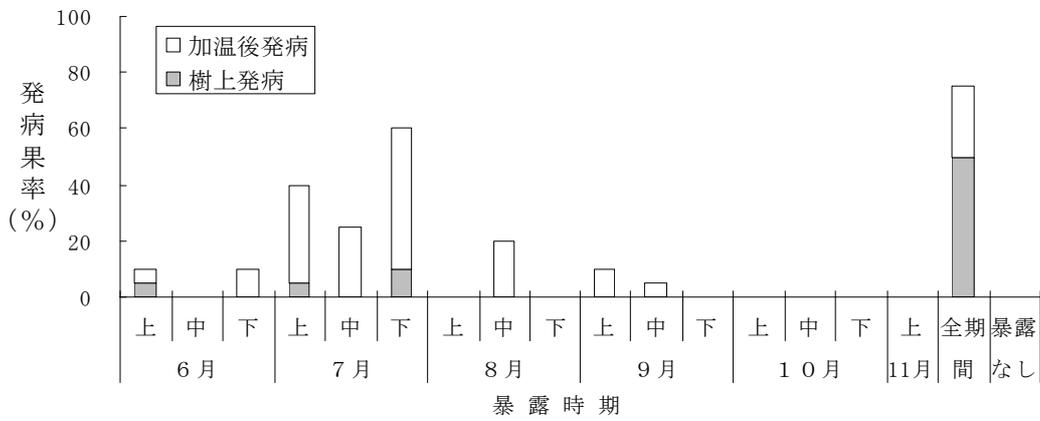


図1 リンゴ‘ふじ’果実における輪紋病の感染時期 (2005年)

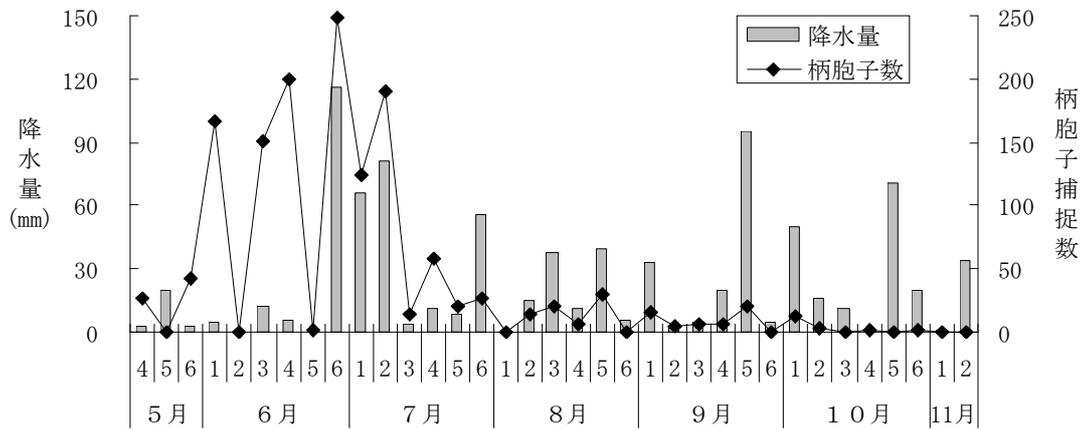


図2 リンゴにおける輪紋病菌柄胞子の飛散消長 (2005年)

[発表文献等]

なし